

告 辞

本日、令和元年度、函館工業高等専門学校第五十四回卒業証書授与式、および第十五回専攻科修了証書授与式が、このような異例の形になりました。参列叶わなかった卒業生・修了生の皆さん、及び保護者の皆様方には、本授与式の挙行に対し、ご理解とご協力を頂き、心より感謝申し上げます。

今年度は、本科卒業生が、外国人留学生四名を含め、百五十七名、専攻科修了生が、二十名であります。卒業生、修了生の皆さん、全ての教職員に代わりまして、心よりお祝いを申し上げます。

卒業・修了、おめでとうございます。

これまで皆さんを支え続けてこられた 保

護者の皆様方、心よりお慶び申し上げます。

本校 函館工業高等専門学校は、五十八年前の昭和三十七年、国立高専一期校 全国十二校の一校として、この函館の地に開校した伝統のある学校です。

高等専門学校は、中学校卒業から五年間一貫で、大学卒業レベルの高度な工学的専門教育を実施する、高等教育機関であります。その使命は、社会の期待に応える人材として、科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者を養成し、社会に送り出すことでもあります。このことは、今日も何も変わることはありません。今や、ますます高等専門学校に対する期待とその重要性が高まっています。

現在、国立の高等専門学校は、全国に五十一校五十五キャンパスに拡大・発展しています。今年も皆さんと一緒に 約一万人が、全国の高専を卒業します。本科の皆さんには、全国に

約一万人の高専同期生がいることになります。大変心強いことです。また専攻科生は、全国で約千百人が修了します。

皆さん方の世代の同一年齢の人口が約百二十万人ですので、その内ほぼ一パーセントが高専で学んだことになります。

高専教育の特徴は、高専における教育の質を保証していることにあります。国立高専は、卒業生の能力・学力・知識が、全国一定のレベルにあることを保証しています。

同じ年代の一パーセントの道を選んで 函館高専で学んで、そして卒業する皆さんは、全国水準の高専教育を、この函館で受け、そして身につけた学力は、全国レベルにあることとなります。函館高専で学んだことへの誇りと同時に、高度な高専教育カリキュラムを立派に修得したことへの確固たる自信を持ってもらいたいと思います。

皆さんは多くの人に支えられて、そして導かれて今日ここまで来たわけです。まずは、ご家族への感謝の気持ちと愛情を忘れないで下さい。皆さんを直接指導してくれた先生方への感謝も、忘れないでもらいたいと思います。

皆さんは本校でたくさんを経験し、そしてたくさんの良い思い出を、周りの友人と一緒に作ることができました。ここで得た多くの友人は、かけがいのない財産です。高専で培った絆は強いものです。これからお互いを高め合い、そして大切にして下さい。

皆さんにとっては、卒業が次へのスタートとなります。大学に進学する皆さん、専攻科に進学する皆さん、就職する皆さん、函館高専で学んだこと、経験したこと、そして卒業したこ

と、修了したことを誇りに思って次のステップを力強く駆け上がつて下さい。

私たちの社会は、これまで経験したことのないほどの大きな時代のうねりの中にいます。産業技術、特に、情報技術の急激な進歩は目を見張るものがあります。高度な情報技術が社会や私たちの生活の隅々まで浸透し、これまでにない新たな価値観を生み出し、新しい社会制度や生活様式が築かれようとしています。

人工知能（AI）に代表される高度な科学技術が新たなフェーズとなり、新しいスマート社会の実現に向けて、科学技術が集約されることになります。

皆さんは、すでに次世代の科学技術を担う素養と基礎知識を学びました。これからは、ス

マート社会実現に向けた技術開発や課題解決をしっかりと担ってもらいたいと思います。

社会の動向に敏感で、そして国際的な貢献も視野に入れた技術者として、人間としての感性と理性を磨き、これから来る新たな社会に向けて、準備を万全とし、大いに活躍して頂きたいと思います。

最後になりますが、本校、初代校長である秦康光先生が唱えた、本校の校訓、

「汝が夢を持って、大志を抱け、力強かれ」

この活力と希望に満ちた言葉を、本日改めて卒業・修了する皆さんへのはなむけの言葉とし、告辞といたします。

令和二年三月十九日

函館工業高等専門学校長

但野 茂